

パナマ内政・外交（2020年7月定期報告）

【ポイント】

- 1日、通常国会が開会し、マルコス・カスティジェロ議員が引き続き国会議長に選出された他、コルティソ大統領が国会演説を行った。
- パナマ県、西パナマ県、コロン県、チリキ県、ボカス・デル・トロ県においては外出禁止が強化された一方、エレラ県、ロス・サントス県、コクレ県では経済活動に係る規制が緩和された。
- 外交面においては、22日、中国と中南米諸国間でビデオ会議方式による外相会合が実施された。

【本文】

●内政

1 2020年度通常国会の開会

(1) 1日、本年度通常国会（前期）が開会し、国会議長等が選出された。

議長：マルコス・カスティジェロ（PRD党）

第一副議長：セノビア・バルガス（PRD党）

第二副議長：ティト・ロドリゲス（モリレナ党）

(2) その後、国会常設委員会が順次発足し、外交委員会は28日に発足した。

外交委員長：フェルナンド・アルセ（PRD党）

外交副委員長：アレハンドロ・カスティジェロ（PRD党）

書記：マリアノ・ロペス（PRD党）

委員：エリック・ブロセ（PRD党）

委員：エディソン・ブロセ（無所属）

委員：エベラルド・コンセプション（パナメニスタ党）

委員：エクトル・ブランズ（PRD党）

委員：アライン・セデニョ（CD党）

委員：マジン・コレア（CD党）

2 コルティソ大統領の国会演説

1日、コルティソ大統領は、国会の開会に際し演説を行い、17の優先課題の実施に係る公約のうち、公共調達法の改正や官民パートナーシップ法の制定など、16のプロジェクトを実現した点などの昨1年間の施政報告、や、パンデミックへの対応として、食糧配給に係るパナマ連帯計画などの実施報告を行った他、今後の経済再活性化政策の発表や、（1821年スペインからの独立からの）200周年の枠組みにおいて、社会保険庁の持続的な運営方法などの論点を含む、新たな国をあげての合意に向けた対話の呼びかけなどを行った。

3 新型コロナウイルス感染症対策

(1) 非対称的な規制強化及び緩和

ア 17日より、パナマ県及び西パナマ県において、(性別によって外出できる曜日を限定し、身分証末尾の数字により外出可能時間の管理を行う既存の一般的外出禁止に加え)金曜19時から月曜5時まで週末完全外出禁止となった。

イ 24日より、感染件数が上昇しているコロン県、チリキ県、ボカス・デル・トロ県においても、パナマ県、西パナマ県同様の週末外出禁止となった(ただし、これらの県では一般的外出禁止措置はとられていない)。

ウ 一方、実効再生産数(Rt)及び感染者数が低く、医療サービスをも安定しているエレラ県、ロス・サントス県、コクレ県においては、27日より、自動車販売、民間工事、専門サービスの経済活動再開が許可された。

(2) 医療体制の逼迫と対策

ア 15日、これまで新型コロナウイルス感染患者受け入れの中核をなしてきたサンミゲル・アルカンヘル病院の医師により、病床が全て埋まり、患者も椅子に溢れている中、消耗品や医療用の手袋や防護服も不足しているような状況の改善を求め、デモが行われた。

イ 医療従事者不足に対し、保健省は、新たな医療従事者500名を募集。また、50名の専門医の募集においては、外国人医師も募集の対象とした。

ウ パナマ政府は、病床不足対策として、主要病院が重症患者対応に専念出来るように、フィガリ・コンベンションセンターに160床、アマドール・コンベンションセンターに796床、トクメン高等専門学校に130床を設置し、低中程度患者をこれら施設に移す計画の調整を開始。

エ 16日、コルティソ大統領は、外務省及び保健省を通じ、2020年末から2021年上半旬に新型コロナウイルス向けワクチンを購入出来るよう調整を開始した旨発表。

●外交

1 中国・中南米諸国ビデオ外相会合

(1) 22日、中国と中南米諸国間でビデオ会議方式による外相会合が実施され、フェレル外相も参加。

(2) フェレル外相は、保健分野のプロジェクトや新型コロナウイルス向けワクチンなどに係る、研究、機材、消耗品、資金などにおける協力等を議題として、王毅外交部長と対談した旨ツイートした。

(了)